

[成果情報名] 食味を重視したブドウ「シャインマスカット」における第2回目ジベレリン処理方法

[要約]ブドウ「シャインマスカット」において、第2回目ジベレリン処理にフルメット液剤を加用することで果粒肥大促進効果は認められるが、糖度や食味が低下するため、ジベレリン単用処理とする。

[担当]山梨県果樹試験場・栽培部・生食ブドウ栽培科・上野真聖

[分類]技術・普及

[課題の要請元]

販売・輸出支援課、果樹・6次産業振興課

[背景・ねらい]

ブドウ「シャインマスカット」は消費者からの人気が高く、市場からの需要も多いため、出荷量が増加している。しかし、低糖度果実が流通するなどの問題があり、高糖度果実生産技術が求められている。2024年4月に、「シャインマスカット」における第2回目ジベレリン処理のフルメット液剤加用が2～10ppmの濃度で登録拡大された。そこで、第2回目ジベレリン処理のフルメット液剤加用が果実品質に及ぼす影響を検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 果粒重はいずれの処理濃度でも、フルメット液剤を加用することで、ジベレリン単用処理に比べ大きくなるが、年次や栽培条件によって効果にばらつきが見られる（表）。
2. 糖度は、フルメット液剤を5～10ppmの濃度を加用することで低くなる（表）。
3. 酸含量や果皮色、裂果には差が見られない。果粉はフルメット液剤を加用すると減少する傾向があり、その減少程度は5ppm以上で顕著である（表）。
4. いずれの処理濃度でも、フルメット液剤を加用することで、皮ごと食べにくくなる。また、ジベレリン単用処理に比べ食味が低下する傾向が見られる（図）。
5. 以上の結果から、第2回目ジベレリン処理にフルメット液剤を加用することで、糖度や食味が低下するため、ジベレリン単用処理とする。

[成果の活用上の留意点]

1. 本成果は、果樹試験場（山梨市江曾原：標高460m、褐色森林土）における、長梢剪定樹での結果である。
2. 開花前の房づくりや摘粒、摘房による房数調整を行い、収量基準（10a当たり3,000房、1,500～1,800kg）を遵守する。

[期待される効果]

「シャインマスカット」の高糖度生産に寄与でき、山梨ブランド維持が期待される。

[具体的データ]

表 第2回目ジベレリン処理のフルメット液剤加用が「シャインマスカット」の果実品質に及ぼす影響(2023～2024)^z

処理区	果粒重 (g)	糖度 (°Brix)	酸含量 (g/100ml)	果皮色 ^y (c.c.)	裂果率 (%)	果粉 ^x (1～5)
2ppm	15.0	19.5	0.25	3.6	0.2	2.5
5ppm	16.0	18.4	0.24	3.4	0.2	2.3
10ppm	16.0	18.2	0.24	3.3	0.3	2.0
GA単用(対照)	14.3	19.3	0.27	3.7	0.1	2.7

z)長梢剪定樹(露地:テレキ5BB,8～9年生、雨よけ:テレキ5BB,25～26年生)、

調査日:露地 2023(9/20)・2024(9/17)、雨よけ 2023(8/30)・2024(9/17)、収穫時に平均的な10果房を調査

GA処理:第1回目処理はGA25ppm+フルメット5ppmで実施した

y)シャインマスカット専用カラーチャート(山梨県総合理工学研究機構):1(緑)～5(黄)

x)1(無)～5(濃)

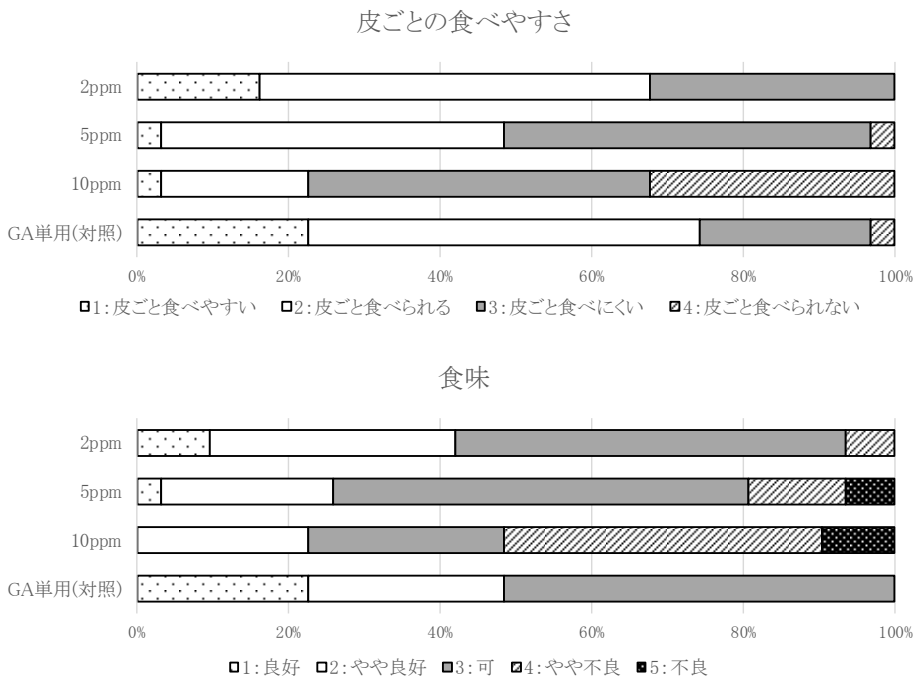


図 フルメット液剤加用が、「シャインマスカット」の皮ごとの食べやすさと食味に及ぼす影響(2024)
長梢剪定樹(露地、テレキ5BB、9年生)、のべ31名のパネラーによる官能評価

[その他]

研究課題名:植物調節剤利用試験

予算区分:県単

研究期間:2023～2024

研究担当者:上野真聖、塩谷諭史、網中麻子、宇土幸伸